

梅が丘小創立記念日を祝うための資料

校名 水戸市立梅が丘小学校

住所 水戸市姫子1丁目827番地の2

創立記念日 11月22日

1 開校まで

【校名設定】 昭和50年(1975年)12月21日

- * 梅の都(水戸のこと)の『梅』と、明るい希望を象徴する『丘』を組み合わせ、『梅が丘』小学校とする。見和小学校や姫子小学校という案もあったが現在の名称に。
- * 校名を選定した校名選定委員会メンバーは、市議会、教育委員会、学区有志、関係学校(見川小、常磐小、石川小、河和田小)の学校長だった。
- * 昭和50年12月21日に、水戸市立梅が丘小学校設置条例が水戸市議会で議決され、校名設定となる。

【開校】 昭和51年(1976年)4月1日

- * 建設工事は、昭和50年7月13日に始まり、翌51年3月20日に竣工した。
- * 学校敷地面積 19152.17 m²、校舎面積 5543.98 m²、建設費は、5億82万円だった。
- * 開校時の学校長は富永直先生、教頭は中村康雄先生、大堤敏平先生。職員数41名、児童数は1099名(男子571名、女子528名)。

2 校章制定 昭和51年7月10日

- * 校章の図案を一般より募集(310点)。茨城大学教授 後藤末吉氏に審査を依頼。後藤氏が多少手を入れ、校章が決定する。
- * 学問を好み、春にさきがけて咲く梅の花(好文木)をデザインしたもの。外側の形は、梅の形を表し、7つの丸は1年生から6年生と先生を表している。『先生と子どもがひとつになってがんばっている』という意味をもっている。



3 創立記念日の由来



校旗制定 昭和51年11月22日

- * 校章をもとにして、校旗を制定した日を記念し、創立記念日とする。
- * 昭和52年(1977年)6月28日に校旗を正式に児童に披露した。この日、『校旗に集う』児童集会を開き、校旗を中心にして、『梅が丘のよい子』となることを誓った。

4 校歌制定

【梅が丘 子どもの歌発表会】 昭和52年1月30日

- * 梅が丘小学校の校歌が制定されるまでの間、皆で歌える歌を一般から募集し、教職員(国語部、音楽部)が審査をし採用された。

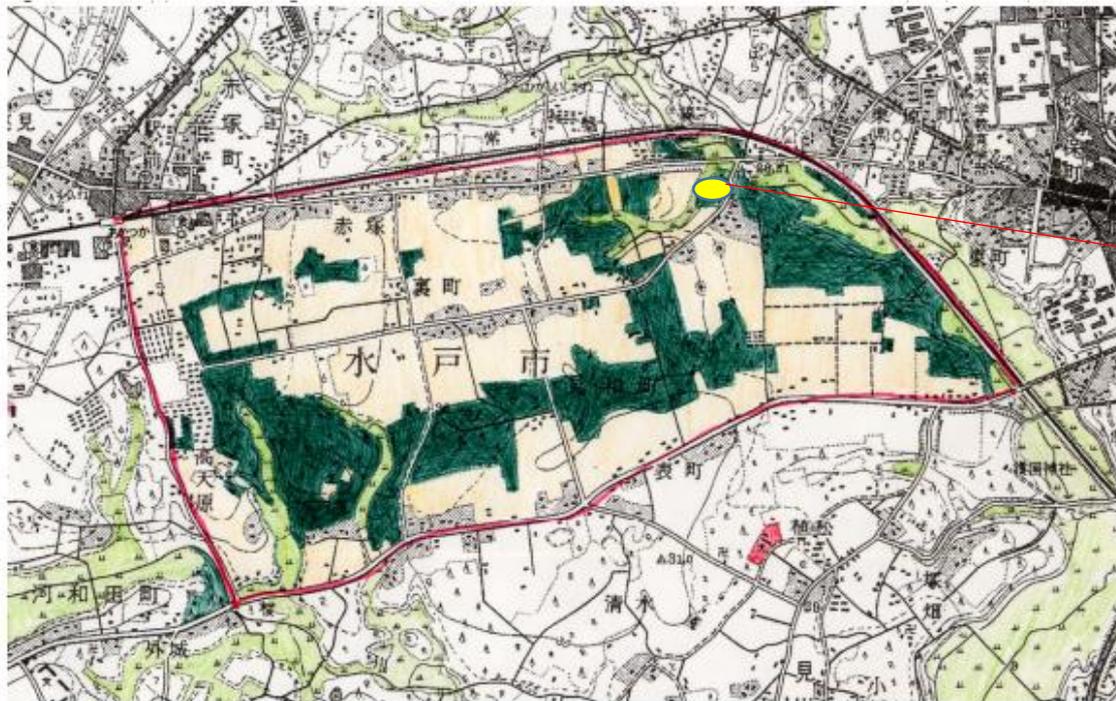
題名 『みんなの梅が丘』 作詞 海沼美樹(6年生) 作曲 志村典子

【校歌制定】 昭和55年(1980年)11月15日

- * 梅が丘小学校創立5周年記念式典の中で、校歌が発表された。あわせて、校歌碑と子どもの像『つばさ』の除幕式も行われた。
- * 作曲者は、團伊玖磨(だんいくま 1924 - 2001年)。日本を代表するクラシック音楽の作曲家。「ぞうさん」や「花の街」など作曲多数。
- * 作詞者は、栗原一登(くりはらかずと 1911 - 1994年)。演出家、劇作家として活躍。女優 栗原小巻 の実父。



5 梅が丘小学校沿革



現在の梅が丘小の位置

【かつての梅が丘地区】 昭和 35 年（1960 年）ごろ

- * 黒くぬられているところは樹林。梅が丘小学校はまだない。現在の校庭付近には、水田もあった。
- * 人家は道沿いに点在し、平地には耕作地（畑や果樹林）が広がっていた。
- * 地図上の左下（河和田町外城の西方）には河和田小が、右方（植松の表記の西方）には見川小（当時は緑岡小見川分校）が、右上（茨城大学教育学部の表記西側）には、常磐小が見える。

【梅が丘小ができるまで】

- * 現在の町名（見和、姫子）に変更されたのは、昭和 50 年（1975 年）6 月 1 日。
- * 見和地区児童が登校していた学校
昭和 27 年（1952 年）3 月までは、3 年生まで緑岡小見川分校（現見川小）に、4 年生から緑岡小に通っていた。同年 4 月からは、水戸市との合併により、裏見和（地図上では、裏町）の児童は常磐小と新荘小に、表見和（地図上では表町の岩間街道以北）は緑岡小に通った。
同 39 年 4 月緑岡小見川分校が見川小となり、表見和の児童は全員見川小に通うようになる。
- * 姫子地区児童が登校していた学校
昭和 30 年 3 月までは、河和田村通り赤塚（地図上では赤塚）に住む児童は、河和田小学校に通っていた。同年 4 月からは、通り赤塚が水戸市に合併したため、常磐小学校に通うようになり、その後、石川小学校が新設されると、通り赤塚の児童は、ほとんどが石川小学校に通学した。
- * したがって、親と子、兄と弟が母校を異にするといった体験をしてきた梅が丘地区の人々は、なんとか地元で学校をとという強い願いをもっていたのである。

【樹木に託した願い】 献木移植 昭和 52 年（1977 年）6 月 4 日 校庭周囲に植樹する。

- * 地域の方に呼びかけた献木運動が実り、多数の献木の植樹が PTA 会員及び教職員によって行われた。かつての里山のように、緑豊かな梅が丘小であり、との願いが込められているのである。その木々も立派に育ち、子どもたちを見守り続けている。
- * 現在の梅が丘地区では、学校裏手にある『どんぐり山』のような雑木林はほとんど見られなくなってしまった。緑陰につどい、私たちの梅が丘の歴史に思いを馳せたい。